

今まで学習したことを活用しましょう。

看護にとって、病院内でのコミュニケーションは重要なスキルです。病院内でのコミュニケーションには、片方向伝達と双方向伝達の二つのタイプがあります。これらの違いを理解し、適切に使い分けることが、効果的なコミュニケーションのために必要です。

まず、片方向伝達とは、送信者が受信者に情報を伝えるだけの一方的なコミュニケーションです。次に、双方向伝達とは、送信者と受信者が互いに情報をやり取りし、フィードバックを通じてコミュニケーションを深めることを指します。

今日の授業では、片方向伝達と双方向伝達の定義と特徴、それぞれのメリットとデメリット、そして病院内での適用例についてレポートをまとめもらいます。

今まで学習したことを思い出しながら、グループで相談し、レポートを完成させましょう。

レポートの基本的な書き方は以下のようになります。

- レポートの目的は、自分の考え方や意見を論理的に説明し、読み手に伝えることです。
- レポートは、はじめに、本文、おわりにの三つの部分に分けて書きます。はじめに、レポートの構成と主旨を述べます。本文は、レポートのテーマに関する事実や根拠、分析や評価を展開します。おわりに、レポートの結論と今後の展望を述べます。
- レポートは、自分の言葉で書きます。他の文献や資料から引用する場合は、必ず出典を明記します。引用する内容は、レポートの内容に関連があるものに限ります。
- レポートは、文章の構成や表現に気をつけます。文章は、主語と述語が明確で、文と文のつながりが分かるように書きます。表現は、正確でわかりやすい言葉を使い、誤字や誤用を避けます。
- レポートは、自分の考え方や意見を明確に示します。自分の立場や視点を示し、それに基づいて論理的に説明します。読み手に対して、自分の考え方や意見を納得させることを目指します。

レポートは、「はじめに、本文、おわりに」の三つの部分に分けると以下のようになります。

はじめに

- レポートのテーマを紹介する。
- レポートの目的や問い合わせを明確にする。
- レポートの構成を説明する。
- レポートの主旨を述べる。

本文

- レポートのテーマに関する事実や根拠を提示する。
- 事実や根拠に対して、自分の分析や評価を行う。
- 分析や評価の結果をまとめる。
- 分析や評価の結果に基づいて、自分の考え方や意見を示す。

おわりに

- ・ レポートの内容を簡潔に要約する。
- ・ レポートの結論を明確にする。
- ・ レポートの内容に関する今後の展望や提言を示す。
- ・ レポートの内容に対する読者の反応や感想を求める。

解説

これでも難しかったら、以下のように解説をしてみてください。

はじめに

- ・ 今回のレポートで何について書くかを話す。
- ・ 今回のレポートで何を知りたいかや何を考えたいかをはっきりさせる。
- ・ 今回のレポートでどんなことを書くかを順番に話す。
- ・ 今回のレポートで何を伝えたいかを言う。

本文

- ・ 今回のレポートで書くことに関する本当のことや証拠を出す。
- ・ 本当のことや証拠について、自分がどう思うかやどう判断するかを書く。
- ・ 自分がどう分析しどう判断するかのまとめを書く。
- ・ 自分がどう分析しどう判断するかにもとづいて、自分の意見や考えを書く。

おわりに

- ・ 今回のレポートで書いたことを短くまとめる。
- ・ 今回のレポートでどういう答えになったかをはっきりさせる。
- ・ 今回のレポートで書いたことについて、これからどうなるかや、どうすべきかを話す。
- ・ 今回のレポートで書いたことについて、読んだ人がどう思うかやどう感じるかを聞く。

今回のテーマの、レポートの参考となる構成は以下のようになります。

はじめに

病院内でのコミュニケーションの重要性と目的を説明する。

片方向伝達と双方向伝達の二つのタイプがあることを紹介する。

レポートの構成と主旨を述べる。

本文

片方向伝達とは何か、その定義と特徴を説明する。

片方向伝達のメリットとデメリットを挙げる。

病院内での片方向伝達の適用例を具体的に示す。

双方向伝達とは何か、その定義と特徴を説明する。

双方向伝達のメリットとデメリットを挙げる。

病院内での双方向伝達の適用例を具体的に示す。

おわりに

片方向伝達と双方向伝達の違いとそれぞれの有効性をまとめる。

状況や目的に応じて、片方向伝達と双方向伝達のどちらを選択するかが重要であることを強調する。

病院内でのコミュニケーションのスキルを高めるために、今後の学習や実践について述べる。

レポートの例文です。概ね高校生のレベルで、ここまで書けば合格というものを用意しました。

はじめに

病院内のコミュニケーションとは、看護師や医師、患者や家族など、病院で関わる人たちと情報や意見をやりとりすることです。病院内のコミュニケーションは、患者の安全や満足度を高めるためにとても重要です。

また、看護師の仕事の質やチームワークを向上させるためにも必要です。

病院内のコミュニケーションには、片方向伝達と双方向伝達の二つのタイプがあります。片方向伝達とは、一方的に情報を伝えることです。

双方向伝達とは、相互に情報をやりとりすることです。これらの違いを理解し、適切に使い分けることが、効果的なコミュニケーションのために必要です。

このレポートでは、まず、片方向伝達と双方向伝達の定義と特徴について説明します。

次に、それぞれのメリットとデメリットを挙げます。そして、病院内の片方向伝達と双方向伝達の適用例を具体的に示します。

このレポートの主旨は、病院内のコミュニケーションのタイプについて理解を深め、自分のコミュニケーションのスキルを高めることです。

本文

片方向伝達とは、話す人が聞く人に情報を伝えるだけで、聞く人からの返答やフィードバックを求めないことです。片方向伝達の特徴は、以下のようになります。

- ・ 情報の伝達が速くて正確です。
- ・ 話す人が情報の内容や順序をコントロールできます。
- ・ 聞く人は情報を受け取るだけで、質問や意見を言えません。
- ・ 話す人と聞く人の関係は、上下や指示と服従のようになります。

片方向伝達のメリットは、以下のようになります。

- ・ 緊急や危険な状況で、迅速に指示や命令を伝えることができます。
- ・ 複雑で重要な情報を、誤解や混乱なく伝えることができます。
- ・ 話す人の権威や責任を強調することができます。

片方向伝達のデメリットは、以下のようになります。

- ・ 聞く人の理解や受け入れを確認することができません。
- ・ 聞く人の感情やニーズに配慮することができません。

- ・ 聞く人の参加や協力を促すことができません。

病院内での片方向伝達の適用例は、以下のようになります。

看護師が患者に処置や検査の説明をするとき、片方向伝達を使うことがあります。これは、患者に必要な情報を正確に伝えるためです。

例えば、「今から採血をします。針を刺すときは少し痛みを感じるかもしれません、我慢してください。」というように、話す人が情報の内容や順序をコントロールして伝えます。

医師が看護師に指示や命令をするとき、片方向伝達を使うことがあります。これは、緊急や危険な状況で、迅速に行動するためです。例えば、「この患者は心停止です。すぐに心臓マッサージを始めてください。」というように、話す人が権威や責任を強調して伝えます。

双方向伝達とは、話す人と聞く人が情報をやりとりすることです。双方向伝達の特徴は、以下のようになります。

- ・ 情報の伝達が遅くて不正確になることがあります。
- ・ 話す人と聞く人が情報の内容や順序を共有できます。
- ・ 聞く人は情報を受け取るだけでなく、質問や意見を言えます。
- ・ 話す人と聞く人の関係は、対等や協力と相談のようになります。

双方向伝達のメリットは、以下のようになります。

- ・ 聞く人の理解や受け入れを確認することができます。
- ・ 聞く人の感情やニーズに配慮することができます。
- ・ 聞く人の参加や協力を促すことができます。
- ・ 双方向伝達のデメリットは、以下のようになります。
- ・ 情報の伝達に時間がかかることがあります。
- ・ 情報に誤解や混乱が生じことがあります。
- ・ 話す人の権威や責任が弱まることがあります。

病院内での双方向伝達の適用例は、以下のようになります。

看護師が患者にカウンセリングをするとき、双方向伝達を使うことがあります。これは、患者の感情やニーズに配慮するためです。例えば、「あなたはどのように感じていますか?」「それはどうしてですか?」「私はあなたの気持ちを理解できます。」というように、話す人と聞く人が情報をやりとりします。

医師と看護師がカンファレンスをするとき、双方向伝達を使うことがあります。これは、

患者の状態や治療方針について意見を交換するためです。例えば、「この患者の血圧は高めです。どのような処置をしましたか?」「私はこの薬を投与しました。効果がありましたか?」「はい、効果がありました。。。しかし、血圧が安定しないので、薬の量を調整する必要があります。」「そうですね。どのくらいの量にしますか?」「このくらいにしましょう。」というように、話す人と聞く人が情報の内容や順序を共有します。

おわりに

このレポートでは、病院内でのコミュニケーションのタイプとして、片方向伝達と双方向伝達について説明しました。片方向伝達は、一方的に情報を伝えることで、迅速で正確な伝達ができるメリットがありますが、聞く人の理解や感情に配慮できないデメリットがあります。

双方向伝達は、相互に情報をやりとりすることで、聞く人の理解や感情に配慮できるメリットがありますが、時間がかかったり誤解が生じたりするデメリットがあります。病院内でのコミュニケーションは、状況や目的に応じて、片方向伝達と双方向伝達のどちらを選択するかが重要です。

例えば、緊急や危険な状況では、片方向伝達を使って指示や命令を伝えることが適切です。一方、患者の心理的なサポートやチームワークの促進では、双方向伝達を使って情報や意見を交換することが適切です。

病院内でのコミュニケーションのスキルを高めるために、今後の学習や実践について述べます。まず、片方向伝達と双方向伝達の特徴やメリット・デメリットを理解することが必要です。次に、自分のコミュニケーションのタイプを自己評価することが必要です。

そして、状況や目的に合わせて、コミュニケーションのタイプを切り替えることが必要です。最後に、コミュニケーションの効果や改善点をフィードバックすることが必要です。

このレポートで書いたことを元に、自分の目標や行動指針を書けるようになっているとさらに良いでしょう。